

10月14日FMわっしょい「認定NPO法人みらいプラネット」出演！！

2024年10月30日(水)
FMわっしょい

10月14日、
FMわっしょい「あなたからあなたへハートtoハート」
この日の出演は、

認定NPO法人みらいプラネット 理事長 山根美伸さんです！

認定NPO法人みらいプラネット（以下、みらいプラネット）は、
以前は「難治性血管奇形相互支援会」という名称で、
難病指定を受けるための署名活動などをされていました。
その活動を経て、もっと広く、さまざまな方へ支援の手を広げるために、
「みらいプラネット」という名前に変更し、活動を続けていらっしゃいます。

病気の症状は人それぞれで、見た目ではわからないことも多いので、
病気への不理解や先入観で差別やハラスメントを受ける患者さんが少なくありません。
そんな患者さんへのカウンセリングや、メンタルヘルス研修を行っています。
また、人権学習啓発のため、学習教材を県内の図書館や学校に配布しています。

今回は、第4回難病カウンセリング検定についてお話していただきました。
この検定は、12月15日に山口市で行われます。
この検定を受けることで、人に優しくできたり、
相談を受けたときにどう対応すればいいのかわかるようになります。

今の自分の考え方をチェックする試験なので、基本的には勉強は不要ですが、
勉強したい！という方は、県内の各図書館や学校にある学習教材や、
みらいプラネットの公式YouTubeチャンネルを見ておくといいそうです。
学習教材は、『咲き誇れ、強く—Irreplaceable—』というDVDや、
『負けるものか！～未来の自分へ…自分らしく生きるための復活力～』、
『ひとつぼし～咲き誇れ、強くNext Season』です。

山根さんは、
「人に寄り添える笑顔が最終的な目標です。
みなさんと一緒に作ってまいります」とおっしゃっていました。

身近に病気と関わっている人がいる人も、いない人も、
この検定を受けて、人への接し方を改めて考えてみてはいかがでしょうか。

広報わき

令和7年2月号

人権学習啓発図書「ひとつぼし」の寄贈

認定特定非営利活動法人みらいプラネットの有富健会長から人権学習啓発図書「ひとつぼし」5冊、小学校に40冊寄贈していただきました。この図書は、学校教育において、より一層の人権教育を推進できるように、県内の教育委員会や小学校に配布されています。
寄贈していただいた図書は、小学校での読書会や人権学習で活用し、青少年の健全な心の育成や次世代教育に役立てていきたいと考えております。誠にありがとうございました。



重岡教育長(左)と有富会長(右)

FMわっしょい 「あなたからあなたへ ハートtoハート」

令和6年10月14日

広報らんこし

2025年4月号



小学生向け副読本

「ひとつぼし」咲き誇れ、強く

Next Seasons

3月27日、認定NPO法人 みらいプラネット（会長 有富 健氏）から小学生向け副読本「ひとつぼし」咲き誇れ、強く Next Seasons」60冊が寄贈されました。

この副読本は、蘭越町を含めた全国56の行政機関に寄贈されております。執筆者の有富会長自身の経験を基に、「差別やいじめ」がテーマとなっており、副読本を通じて、「差別やいじめ」がなくなることを願った内容となっております。

副読本は町内各学校と花一会図書館に配布されます。

また、今回、寄贈いただいた副読本のイラストは蘭越町出身のイラストレーター 磯村 藍（旧姓：今川）氏が担当されております。

みらいプラネット 人権学習啓発図書寄贈

認定NPO法人みらいプラネット(山口県防府市・有富健会長)は、小樽市内の小中学校へ人権学習啓発図書70冊を寄贈し、3月5日(水)9:00から市役所(花園2・迫俊哉市長)で贈呈式を行った。



同NPO法人は2011(平成23)年3月に患者支援会グループとして発足。2016(平成28)年1月に現在の法人名に変更し、患者をはじめ社会的弱者への偏見や差別を無くし、笑顔あふれる共生社会の実現のため人権擁護活動を行うべく活動している。

2024(令和6)年11月札幌市に205冊、2025(令和7)年3月4日(火)石狩市に70冊、小樽市へは道内3番目の寄贈となる。道外にはすでに数千冊を配布。

今回寄贈された人権啓発学習図書“負けるものか”シリーズ3「ひとつぼし～咲き誇れ、強くNext Season」は、有富会長が自らの病気の経験を題材に「病気」と「いじめ」をモチーフにして書かれたもので、第1部は小中学生が読みやすいように漫画で書かれ、作画は蘭越町出身のフリーイラストレーター・磯村藍氏が担当した。

第2部は、有富会長の半世紀と今後の夢、みらいプラネットに寄せられた患者さんたちの闘病記や体験談を収めた。

小中学生が人権について学習し、全ての人々が笑顔で暮らせる社会にするためにはどうすれば良いかを、家族で考える1冊として寄贈を決定した。



迫市長は、「有効に活用させてもらいたい。人と人のご縁でこのような形になり、巡り合わせを感じている。会長の想いや取り組みを、地域の子どもたちに伝えたい。

我々としても共生社会の実現は大きな課題で、子どもたちが本を手に取り、何かを感じてもらいたい。教育委員会もしっかりフォローしてくれると思う」と感謝した。

小樽ジャーナル
令和7年3月5日



有富会長は、「非売品で全て寄贈。ただ送りつけるのではなく、お会いして話をしてから渡している。10年間病気と認められず、北海道の病院で見つけてもらった。この本を読んで優しさを求めたい。

子どもたちもいろいろなことを抱えて生きている。あの子にも何か事情があるかもしれないと察してあげられるような

気持ちを持ってもらいたい。

本を見てそれを思い出にして、子どもたちが優しい気持ちで人に接し、大人になってもらいたい。壮大な目的からすると、小さな活動ではあるが、少しでも良い方向に向いてもらいたい」と語った。

“負けるものか”シリーズの最初は、難病に特化した「負けるものか」を出版。第2弾は、もっと世間に知ってもらいたいと分かりやすく映像化した「咲きほこれ、強く」。

誹謗中傷に辛かった思いから人権に切り替え「ひとつぼし～咲き誇れ、強くNext Season」を2020(令和2)年3月に出版し、健常者でも悩みを抱えている人など、誰にでも使えるようにした。



寄贈図書は、市内小中学校に配布し、多くの子どもたちが読めるように冊数は学校規模に合わせる。

小樽ジャーナル

令和7年3月5日

防府高の15人がイオンタウンで 書道パフォーマンスを披露 市内で初、「百花繚乱」に思い込め



防府高(大下康一郎校長)にイオンタウン防府(鐘長)書道部が、書道パフォーマンスを3月29日市内の商業施設では初め「百花繚乱」を力強く書き、自分らしさを大切にするメッセージ、サクラの花なども色彩豊かに表現した。4月で3年になる15人が参加し、午前と午後2回のパフォーマンスを見せた。観客にも春の訪れを感じてもらおうと、全員が思いを込めて取り組み、色や音楽にもこだわった。

15人が音楽とともに書道パフォーマンス

河村紗希部長(17)は「書くだけでなく、ダンスや振り付けの練習もあり、大変だった。すごくうまくいき、無事に終わらせて安心できた。こういう場を通して、書を知ってもらえるのがうれしい」と話した。古典を手に学ぶ臨書の活動としており、新年度は全員でさらなる上達を目指す。(杉田雄)



旗を手にダンスも披露した



約6分で色彩豊かな作品に仕上げた